

モデルプログラム（2017年度版）を活用した授業・研修事例

大学における養成 No. 8

カリキュラム(計画) 日本語教授法講義

作成者 氏名：嶽肩志江

研修・養成の別 (研修 / ○養成)

実施機関：横浜国立大学教育学部

実施授業名：「日本語教授法講義」

実施日：2018年10月11日～2019年1月31日（全15回×90分のうち3回は課外活動）

受講者：教育人間科学部3年生10名（日本語教育専攻3年生8名(うち1名は中国出身留学生)=必修科目、英語教育専攻3年生2名）

企画担当者：嶽肩志江（横浜国立大学教育学部 非常勤講師）

本事業担当部会員：河野俊之先生（横浜国立大学教育学部 教授）

	月日	授業内容	関連項目	形態(分)	補足・コメント
1	10月11日	<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施 自己紹介&実習等の体験共有 コース説明 日本国内に暮らす外国につながる人々・子ども達～映画『HAUF』視聴 	⑭⑮ ①⑥ ⑥③	アンケート10分 話し合い40分 講義10分 演習30分	学生一人一人の語りが非常に充実しており、実習から多くの経験と学びを得てきたことが感じられた。 →話した後、書く予定だった振り返りワークシートは宿題とし、後日回収。
2	10月18日	<ul style="list-style-type: none"> 多様な日本語学習者について知る<続き> 日本語学習に関するビリーフ質問紙体験① 外国語を教えること・学ぶこととは？～これまでの外国語学習を振り返る ～ビリーフとは？ さまざまな外国語教授法について知る① ～外国語教授法の流れ（歴史概観） 	⑥⑭⑰⑱	アンケート10分 話し合い・講義80分	
3	10月25日	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな外国語教授法について知る② ～オーディオリンガル法以後の教授法のDVD視聴 ～上記教授法について分担して調べる →11月8日にポスター発表会実施 	⑰	講義	
	11月1日	授業なし(任意参加) ～ポスター発表作業&相談日～			
4	11月8日	外国語教授法ポスター発表会① オーディオリンガル法、サイレントウェイ、TPR、CLL(Community Language Learning)、サジェストペディア、CLIL	⑰	発表	

★NPO 地球学校「地球っ子教室」(横浜駅西口 かながわ県民サポートセンター)における課外活動 ⑧⑨⑫⑬

<https://chikyu-gakko.org/chikyukko/>

- ・活動内容：外国につながる子ども達の日本語・学習支援(マンツーマンまたは子ども2人につく形で支援を行う)
- ・全員、必ず2回(前半1回、後半1回)ずつ、都合がつく日を選び、活動に参加する。なお、10月27日は教室前後にスタッフの勉強会や保護者会があり、希望する学生はこちらへの参加も行った。
前半：10/13=漢字王決定戦(イベント)、*10/27=スタッフ勉強会、保護者会、11/3、11/10
後半：11/17、11/24、12/1、12/8
- ・毎回、活動後1週間以内に「地球っ子教室」フォーマットによる活動報告書とミニレポートを提出

5	11月15日	課外活動(前半)体験共有&支援方法意見交換会 ゲスト:「地球っ子教室」スタッフTさん、Yさん ミニレポートを共有し、気づきや感想、次への課題として皆に意見を聞きたいことなどを投げかけてもらい、ゲストも交えて話し合い解決策を探った。	⑨⑪⑫ ⑭	話し合い	・「いい授業とは? おもしろい授業とは?」が話題に。
6	11月22日	外国語教授法ポスター発表会② コミュニカティブ・アプローチ、ナチュラルアプローチ、TBLT(タスク重視の教授法) 外国語教授法と日本語教育<まとめ> 多様な学習者を意識した教授法選択と実践への応用①期末課題に向けた準備(学習者の設定、レディネス・ニーズの予測/調査、目標設定) ※ワークシート配布 期末課題:さまざまな外国語教授法から得たアイデアを使い教案作成+教材作成 or 模擬授業	⑰	発表 講義	※配布ワークシートは、「あーすぶらざ訪問」までの課題
7	11月29日	外国につながる子ども達の支援と課題 ～学校の現場で起きていること(背景) ～子どもが持つ言葉の力を把握するために(バイリンガリズム、DLAについて) ～考える力も伸ばす言語学習の方法(活動方法・教材の工夫)	⑩⑪① ⑧⑱	講義	DLA 概要のDVD視聴
8	12/1(土) or12/5(水)	多様な学習者を意識した教授法選択と実践への応用②教材研究 あーすぶらざ(神奈川県立地球市民かながわプラザ)フィールドワーク http://www.earthplaza.jp/2019/01/09/33215 あーすぶらざ職員による「外国につながる子ども達」「教育相談窓口に寄せられる相談」等について説明。その後、館内の使用方法と蔵書について説明を受け、各自、教案作成に向けた教材・アイデア探しを行った。	⑨⑱	演習	
9	12月13日	課外活動(後半)のふり返し&話し合い 多様な学習者を意識した教授法選択と実践への応用	⑭ ⑰⑱	話し合い 講義・演習	

公益社団法人日本語教育学会・文部科学省委託「モデルプログラム事業」2018

		③教案作成・教材作成の準備、 外国語教授法発表へのフィードバック			
10	1月 10日	教案・教材作成/模擬授業の発表&フィードバック① 発表15分+QA(持ち時間20分)×3名 ※模擬授業の場合は持ち時間25分 ふり返しシート記入・発表者への個別フィードバック	⑩⑪⑫	発表70分 ふり返し・フィードバック20分	
11	1月 17日	同上 ② 3名 発表ふり返し&発表準備	⑩⑪⑫	発表70分 ふり返し・フィードバック20分	
12	1月 24日	同上 ③ 3名 発表ふり返し	⑩⑪⑫	発表70分 ふり返し・フィードバック20分	
13	1月 31日	・日本語学習に関するビリーフ質問紙体験② ・まとめ：いい授業とは？ 教師の成長(再び、ビリーフについて)	⑮⑯	アンケート 話し合い 講義 DVD視聴	

第14・15回＝課外活動(地球っ子教室)相当分

※最後の発表で作成した教案または教材(カードゲーム、ワークシート等)は、手直しをした後、NPO 地球学校「地球っ子教室」へ寄贈。使っていただいた感想などフィードバックがもらえた場合には学生に還元する予定。

<参考資料・配布資料>

- ・西倉めぐみ・高木ララ監督・撮影(2013)『HAUF ハーフ』
- ・坂本正 他監修(2017)『日本語教育への道しるべ 第1巻ことばのまなび手を知る』
- ・坂本正 他監修(2017)『日本語教育への道しるべ 第3巻ことばの教え方を知る』
- ・久保田美子(2006)『国際交流基金日本語教授法シリーズ1 教師の役割/コースデザイン』
- ・畑佐由紀子(2018)『日本語の習得を支援するカリキュラムの考え方』pp.81-150、くろしお出版
- ・高見澤孟(2016)『増補改訂版 新・はじめてのほんご教育2 日本語教授法入門』
- ・鎌田脩・川口義一・鈴木睦(2006)『日本語教授法ワークショップ版DVD』凡人社
- ・鎌田脩・川口義一・鈴木睦(2007)『日本語教授法ワークショップ増補改訂版』凡人社
- ・小林ミナ(1998)『日本語教師・分野別マスターシリーズ よくわかる教授法』アルク
- ・西口浩一(1995)『日本語教授法を理解する本 歴史と理論編』バベルプレス
- ・ジャック・C・リチャーズ&シオドア・S・ロジャーズ(2007)『アプローチ&メソッド 世界の言語教授・指導法』東京書籍
- ・和泉伸一(2016)『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業—生徒の主体性を伸ばす授業の提案』pp.2-19, 45-66, 71-84、アルク
- ・奥野由紀子・小林明子・佐藤礼子・元田静・渡部倫子(2018)『日本語教師のためのCLIL入門』凡人社
- ・文部科学省初等中等教育局国際教育課(2014)『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA』http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm
- ・宮崎幸江(2016)『日本に住む多文化の子どもと教育 ことばと文化のはざままで生きる 増補版』上智大学出版
- ・横溝紳一郎・坂本正(2016)『日本語教師の7つ道具シリーズ+ (プラス) 教案の作り方編』アルク
- ・齋藤ひろみ・今澤悌・内田紀子・花島健司(2011)『外国人児童生徒のための支援ガイドブック 子どもたちのライフコースによりそって』凡人社

その他に、新聞記事などを配布。

===

- ・川上郁雄・尾関史・太田裕子（2014）『日本語を学ぶ/復言語で育つ 子どものことばを考えるワークブック』くろしお出版
- ・中島和子(2016)『完全改定版バイリンガル教育の方法』アルク
- ・荒巻重人他編(2017)『外国人の子ども白書 権利・貧困・教育・文化・国籍と共生の視点から』明石書店
- ・滝浦真人(2018) 「心理と社会から見る人間の学」『新しい言語学—心理と社会から見る人間の学—』第15章、p. 222-238、放送大学教育振興会
- ・松井智子(2018) 「言語習得論③—多言語が環境における言語習得—」『新しい言語学—心理と社会から見る人間の学—』第8章、p. 115-130、放送大学教育振興会